

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2024年10月15日第146号—

<目次>

●台風19号多摩川水害から5年がたちました

■教職員の欠員と未配置をなくす請願が不採択に！

▲お知らせコーナー

① 10/19 これからの市民館、図書館について 語り合いませんか？

② 10/27 ゆめシネマ「〇月〇日、区長になる女」

③ 11/4 子ども未来集会プレ企画・映画「ゆめパの時間」

④ 11/29 から京浜協同劇団公演「黒と白のピエタ」

★編集後記

●台風19号多摩川水害から5年がたちました

10月4日(金)夜、総合自治会館において「5周年フォーラム」を開催しました。

始まる前に私たちが制作した台風19号の水害被害の実相を描いた映像を見てあらためて、2019年水害がもたらした被害を再確認しました。

フォーラムの内容について簡単に報告します。

①「総合的な治水対策とは」 荒井俊之(横浜市で河川の氾濫や浸水被害を軽減する事業を担当)

主に横浜市の川の水害対策のビフォー・アフターを写真で示し、河川でどういう改善が必要なのかについて分かりやすく説明されました。

特に今までは、「総合治水」として都市部の河川において開発による流出量を抑える対策として調整池の整備など暫定的な代替策として対策を実施していたが、今後は「流域治水」として気候変動による降雨量の増加に対応するため都市部のみならず全国の河川に対象を拡大し河川改修を急ぎ、流域のあらゆる既存施設を利用すること、リスクの低いエリアへの移動や住まい方の工夫も含めて、流域のあらゆる関係者との協議により流域全体で総合的かつ多層的な対策を実施することが求められていることを強調されました。

②「台風19号多摩川水害川崎訴訟の経過と到達」 川岸 卓哉(弁護団事務局長)

2021年3月7日に横浜地裁川崎支部に提訴して3年半の経過についての報告。

当初79名だった原告が96名になり、賠償請求額も2億8294万3791円から5億円を超す訴訟

に広がった。

この裁判の争点は3つある。

(1) 被告川崎市の代表者はだれなのか？

⇒川崎市長と川崎市上下水道事業管理者をそれぞれ代表として決着。

(2) 今回の水害に川崎市の責任はあるのか(責任論)？

⇒「総合的な判断」としても排水樋管ゲートは閉めるべきだったことは明らかになってきた。

(3) 損害賠償はどこまで認められるか？

(損害論)⇒<共通慰謝料>(100万円)憲法13条 平穏生活の侵害として原告すべての被害実態を訴える陳述書を提出。

家財損害の基本主張としては当初証拠を積み上げての個別損害の立証を行ってきたが、2022年7月の鬼怒川水害訴訟水戸地裁判決では家財損害について包括的損害額の計算を採用されたこともあり両者を併用して行っている。

最後に、この集団訴訟の3つの意義「謝れ」「償え」「なくせ」を再確認した報告でした。

③ 3名によるトークセッション

原告団長(川崎晶子)、弁護団長(西村隆雄)水害の会事務局長(長谷川淳)がそれぞれの立場でこの間の活動について報告されました(字数の関係で省略)

<お願いとお知らせ>

・裁判署名をよろしくお願ひします。

→[署名はこちらから](#)

・11月10日(日)12時半 久地駅 現地見学ツアー

・11月14日(木)14時 口頭弁論(川崎支部)

→[公式サイト](#)

台風19号多摩川水害川崎訴訟原告団 事務局長 船津 了

■教職員の欠員と未配置をなくす請願が不採択に！

10月8日、川崎市議会文教委員会は、学校現場からの切実な声に耳を傾けず、「教職員の欠

員・未配置をなくし長時間労働を是正してほしい」という12,183人の請願を不採択にしました。

請願の採択を求めたのは、共産党市古議員、小堀議員の2名のみ。他の自民、公明、みらい、維新、無所属の全員が不採択としました。傍聴した多くの方からは、失望と怒りの声が上がりました。

審議の資料では、9月1日時点の、教員の未配置が、83校で171.5名になったことがわかりました。4月の131人から、じわじわと増加(産体育休、病気休職者の増加)しました。

9月1日時点で、すでに去年度末の146.5人を25人も上回り、悪化の状況が進行しています。

この事実を直視すれば、市教育委員会の採用方針の誤りは明らかです。

市教委は、法律上配置しなければならない教職員の定数を正規職員できちんと補うことをせず、200人以上の欠員を出し、それを非正規教職員で埋めてきました。

この採用方針が3年前から破綻し、それでも方針を改めようとしないことで、ここまでの異常事態を引き起こしてしまったのです。

市教委が、法律できめられた定数に見合う正規教職員を年度当初から採用し、年度途中での産体育休や病気休職の先生の代わりに非正規教職員を充てる方針に改めることが、解決の道です。

現に、東京都や仙台市では、正規の採用者を増やし、年度初めの欠員をゼロにすることで、未配置を大きく減らしています。

ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民の会がよびかけた請願署名は、保護者からも教職員からも、また、街頭でも、幅広い支持を得て、1万2千人余の賛同者を集めることができました。

しかし、市教委は、以下のような「考え方」に固執し、議員の多くがこれに追随しました。

<請願に対する本市(市教委)の考え方>

欠員につきましては、学級数の変動、退職者数の見込みなど様々な不確定要素があり、必要となる教員数を一定の確度で見込むことが困難であることから、国の通知のとおり、臨時的任用の制度を活用する必要があるものと考えております。

市教委は、自分たちの採用方針のミスを認めようとせず、「臨時的任用の制度を活用する必要がある」としているのです。

これでは、学ぶ権利を奪われている子どもたちや、長時間過重労働で疲弊する教職員を救うことはできません。

市民の声をもっともっと大きくしなくてはいけないと決意しています。

ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民の会代表 水野栄子

★お知らせコーナー

①これからの市民館、図書館について語り合いませんか？

=行政に市民の声を届けよう=

10/19(土) 14:00～16:00

エポックなかはら 7階 第3会議室

指定管理業者の選定結果について報告

こんな市民館にしてほしい、図書館はこんなサービスしてほしい、

市民館、図書館の将来のこと、市民も一緒に考えたい・・・

資料代:500円

主催:川崎の文化と図書館を発展させる会 共催:社会教育を考える川崎の会

申込・問合せ:岡本(090—6153—9566)

[詳しくはこちら](#)

②ゆめシネマ「〇月〇日、区長になる女」

10/27(日)

① 9時

② 12時(小関恵子さんトーク)

③ 15時(小関さん+監督トーク)

④ 18時

場所:かわさきゆめホール

前売予約:1,000円

当日:1,500円

障がい者・学生以下:500円

お申し込み:044-433-3003 ゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

主催:ゆめホールシネマ倶楽部

[詳しくはこちら](#)

③子ども未来集会プレ企画・映画「ゆめパの時間」

11/4(月祝)

① 10時

② 12時半

③ 15時

④ 17時半

会場:かわさきゆめホール

前売券:一般 800円／障がい者 400円／学生・子ども 200円

当日券:一般 1,000円／障がい者 500円／学生・子ども 300円

お申込:044-433-3003 ゆめホール／kodomomiraisyukai@yahoo.co.jp

問合せ:事務局・船津了 Tel・Fax:044-434-4290

主催:子どもの未来をひらく川崎集会実行委員会

協力:ゆめホールシネマ倶楽部

後援:川崎市／川崎市教育委員会

公式サイト

詳しくはこちら

④京浜協同劇団公演「黒と白のピエタ」

—種を粉にひいてはならない—

11/29(金)19時(黒)

/30(土)11時(白)

15時(黒)

12/1(日)11時(黒)販売終了

15時(白)

12/6(金)19時(白)

12/7(土)11時(黒)

15時(白)

12/8(日)11時(白)

15時(黒)残席僅か

(黒)と(白)は配役が違います。

詳しくはHPで。

会場:スペース京浜

前売り券:一般 3,500円、障がい者・学生 2,000円

当日券:各 500円増

[公式サイト](#)

[ケーテ・コルビッツについて\(宮本百合子全集より\)](#)

★編集後記

ー9月議会終わるー

第3回の川崎市議会が10月11日に終わりました。

私としては、とても残念で、後味の悪い市議会となりました。

9月2日の市議会開会日、いのちと暮らしを守る川崎市民連絡会は、市役所前で「市民要求実現アクション」を行い、切実な市民要求の実現を願って、アピール行動を実施しました。

しかし、今市議会では、川崎市も市議会議員多数も、市民からの要求に耳を貸さず、市民の願いはほとんど退けられたのです。

何よりも、今回のメルマガの記事にもなっている「教職員の未配置解消で、子どもたちが安心して学べる環境を求める請願」の不採択には、心底、驚きました。

共産党議員以外の不採択を表明した議員は、自分の地域の多くの学校で、決められた数の先生が足りない困難な現実を見ているとはとても思えません。

担任が年度途中から休みとなっても、代わりの先生は来ないのです。

学校は苦肉の策として、教務主任や児童支援担当の先生や、専科を教える先生を、担任にせざるを得ない。

でも、担任の代わりはなんとか埋められたとしても、その先生の進めてきた仕事は、穴があいたまま…。

それなのに、なぜ、行政も議会も、まちがいをただそうとしないのでしょうか。

他にも、子ども医療費の助成制度の18歳までの拡充も、窓口負担の撤廃もなし。

難聴者への補聴器購入の助成制度も拒否。特別養護老人ホームの新規建設も、介護職員の賃金引き上げにつながる市独自支援も拒否しています。

ため息が止まりません。

しかし、ここであきらめてはいません。

巨大物流倉庫建設反対の陳情は否決されましたが、地元住民は、新たな運動を開始しています。

子ども医療費助成制度の拡充をめざす新たな署名運動も動き出します。

給食無償化を求める市民の会の署名は、すでに7千筆を超え、12月議会での採択をめざしています。

10月27日の総選挙が終われば、いよいよ1年後の川崎市長選挙への準備が本格化します。

命と暮らし、平和を求める市民パワーを広げに広げて、10/27総選挙でも、そして、2025年市長選挙でも、確実な前進を勝ち取りましょう。(H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/0IS1Ru09KwZk?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp